

普及活動情勢報告（平成28年3月分）

高吾農業改良普及所

第2回高吾地区農業改良普及推進協議会を開催 ～普及活動実績や地域課題解決について検討～



普及推進協議会の様子

2月23日、普及所では、農家代表やJA、町村関係者が参加し、今年度2回目の普及推進協議会を開催しました。当日は、普及指導活動の取組実績や次年度計画、環境制御技術の導入状況等について説明するとともに、第3期産業振興計画の農業分野での展開イメージについて紹介しました。

委員からは「ニラのそぐりの問題は、新規就農者確保のためには引き続き協議していかないといけない」「集落営農は成功のモデルケースになるよう頑張っていきたい」「ピーマンの残さ処理に悩んでいる」「炭酸ガス施用で収量が1.5倍になるのはすごい」「お茶の価格低下により、お客さんが選んでくれる製品作りが大切」など幅広い意見が出されました。

普及所では、今回出された意見を今後の普及活動に活かしていきます。

JAコスモスニラ生産部が品種試験ほ場で現地検討会を開催



3月7日、JAコスモスニラ生産部の現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。

管内では、低温期に収量が低下することが課題となっているため、低温伸長性の高い品種‘タフガイ’の実証栽培を行っています。

普及所から初期収量が少ない等の調査結果を報告した後、参加者全員で品質や生育の違いを確認しながら、「休眠が少なく、よく伸びる」「1茎が大きく調製作業がしやすい」など、実証農家と活発に意見が交わされました。

次年度は、‘タフガイ’を栽培する農家は4戸に増える予定です。普及所では、さらに収量の増加につながる栽培管理方法を検証していきます。

イチゴのアザミウマ類に対する天敵利用方法を検討しています



管内のイチゴ栽培では薬剤抵抗性が発達したアザミウマ類の防除対策が課題になっています。普及所では、イチゴ部会と協力して、天敵であるアカメガシワクダアザミウマ製剤を用いたアザミウマ類の防除体系を検討しています。

現在、管内で一般的な無加温土耕栽培において、放飼適期を検討した結果、佐川町の平地では2月下旬ごろから放飼可能であると分かりました。

普及所では今後アザミウマ類の増減を調査し、確実な防除体系の構築を目指します。

佐川町の集落代表者らが、集落営農の先進地視察研修を実施



(有)こんばらコメ出荷施設

佐川町は2月29日～3月1日、町内の中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度の導入集落代表者を中心に、集落営農の先進地である今治市の「有限会社こんばら」と東温市の「農事組合法人あぐりすのうち」の視察研修を行いました。

こんばらでは、作業受委託と米麦販売、野菜栽培などの経営の多角化について、あぐりすのうちでは、水稻経営のみで規模拡大や多角化に不利な立地・組合員構成ですが立地条件が佐川町とにかよっている点が参考になりました。

普及所では、研修先の選定など研修計画を立案し、集落の将来を考える機会を持っていただくとともに、組織化した場合の運営ノウハウについて幅広く情報収集が行えるよう支援していきます。